

令和8年度 和光市議会 議会報告会

当初予算と主要施策の報告

予算審査の体制

文教厚生分科会

教育、福祉、子育て支援など、市民の暮らしに直結するソフト分野を詳細に審査しました。

主な担当：学校教育、高齢者・障害者福祉、健康増進

総務環境分科会

都市基盤、環境保全、行財政運営など、まちの骨格を支えるハード分野を審査しました。

主な担当：駅前整備、下水道、防災、公共交通、DX

令和8年度予算の全体像

350.3

一般会計予算額（億円）

前年度比 7.9% の増加

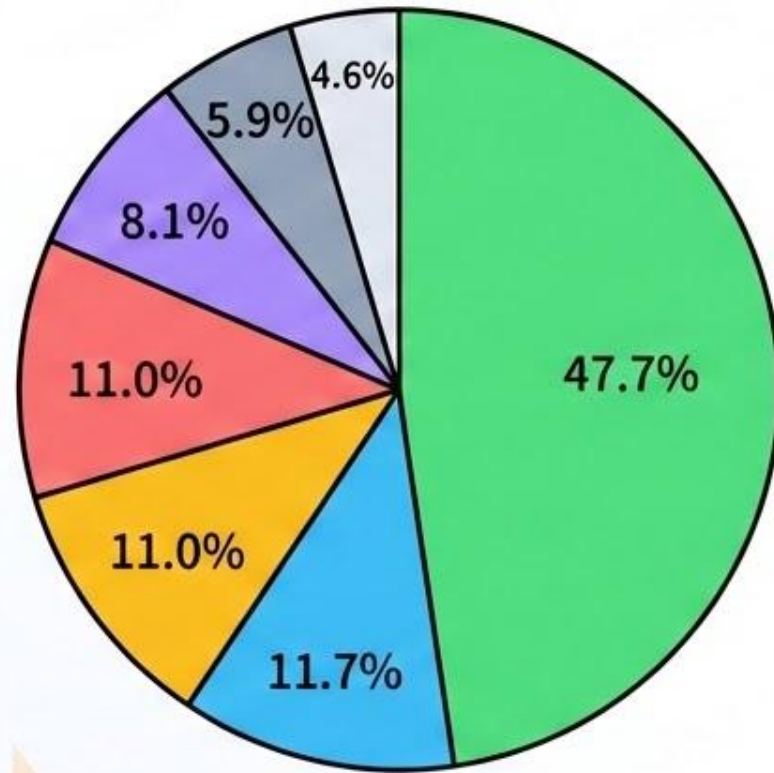
予算編成の基本的な考え

物価高騰から市民生活を守りつつ、将来の成長に向けた投資を並行して進める編成です。

審査のポイント

限られた財源を効果的に活用するため、事務事業評価に基づき、優先順位の低い事業の抑制を提言しました。

令和8年度予算の内訳



- 民生費 (福祉・子育て等) 47.7%
- 総務費 (窓口・行財政等) 11.7%
- 教育費 (学校・社会教育等) 11.0%
- 土木費 (道路・公園等) 11.0%
- 衛生費 (健康・ごみ処理等) 8.1%
- 公債費 (借入金の返済) 5.9%
- その他 4.6%

歳出の約半分を高齢者福祉や子育てに関連する「民生費」が占めており、市民のみなさんの暮らしを支える分野に重点的に支出しております。

令和8年度 施政方針



選択と集中

スクラップ・アンド・ビルドを徹底。事業の優先順位を明確にし、効率的な執行を目指します。



持続可能な経営

インフラ老朽化への計画的な投資と、ゼロカーボン推進による環境負荷の低減を両立します。



市民生活の防衛

物価高騰対策として、水道料金軽減や給食費補助など、直接的な家計支援を強化します。

駅北口整備：和光の玄関口の形成

区画整理と駅前広場

駅北口の土地区画整理事業を推進し、快適で魅力ある駅前空間の基本設計を固めます。

審査での主な質疑

問：用地交渉の遅れは事業全体に影響しないか？

答：交渉に時間を要している箇所はあるが、全体のスケジュールに変更なし。丁寧な説明を尽くす。



不登校対策：教育支援センターの移設



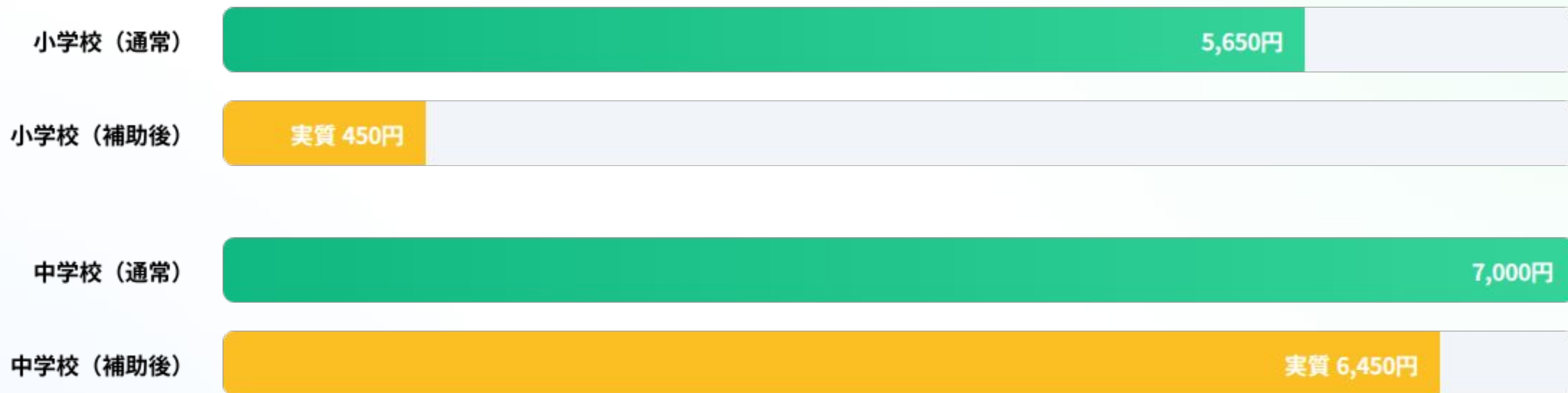
「学校外」にリラックスできる場を

不登校児童生徒の居場所確保のため、センターを本町小から学校外の施設へ移設します。

審査での主な議論

学校以外の場があることで、心理的な通いやすさが向上。こども家庭センターとの緊密な連携により、多角的な支援体制を整えるよう要望しました。

物価高騰対策：学校給食費の補助



※小学校は国の抜本的補助、中学校は値上げ分の半額を市が補助します。

食材費が高騰する中、給食の質を維持しつつ、保護者の家計負担増を最小限に抑えるよう求めました。

行政DX：窓口サービスの利便性向上



キャッシュレス決済

市役所窓口への導入を推進。
セミセルフレジ設置等により
支払いの利便性を高めます。



キオスク端末の設置

市内3つの出張所に設置。証明
書発行が身近な場所で可能に
なります。



日中警備の導入

来庁者と職員の安全確保、カ
スハラ抑止のため、有人警備
による安心感を強化します。

デジタルクーポン給付

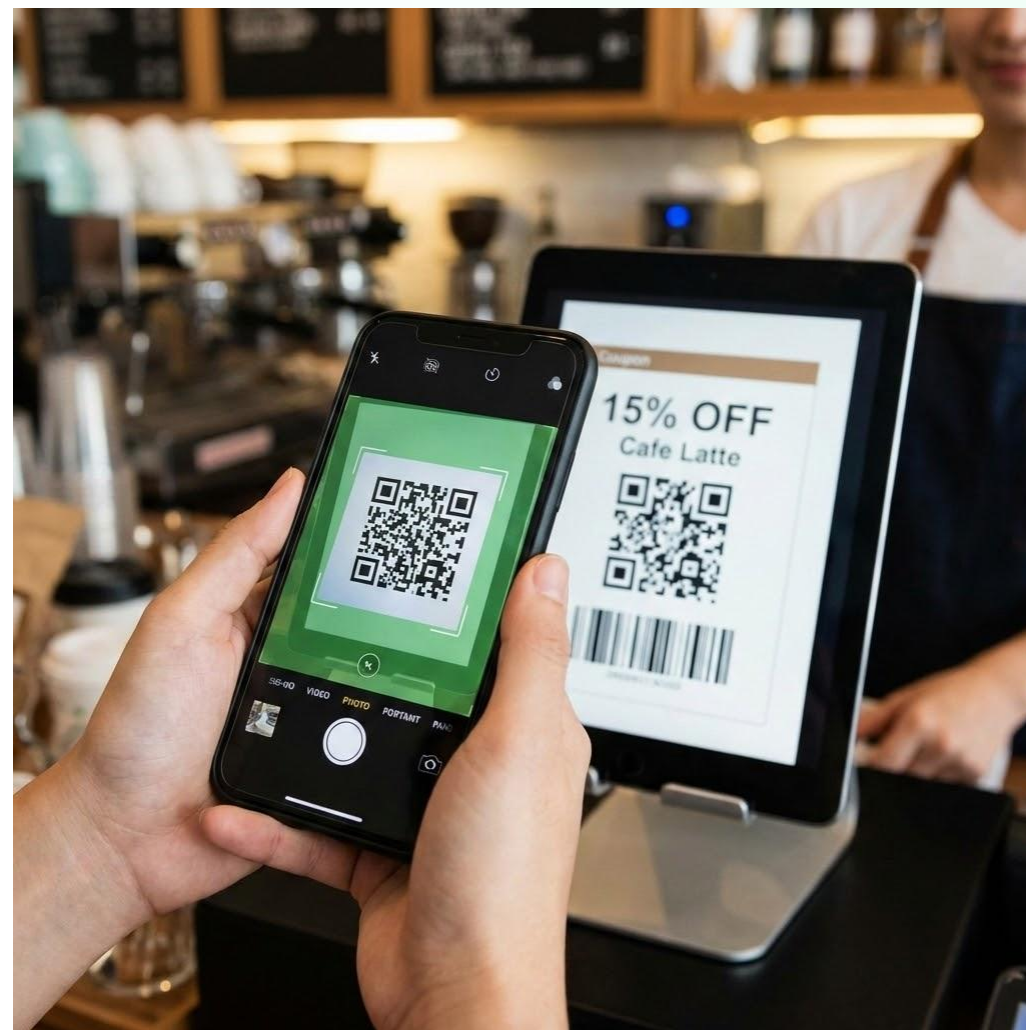
物価高対策として一人あたり3,000円

消費の下支えとともに、市内事業者への支援

審査視点

問：なぜデジタルクーポンなのか

答：事業者側の事務負担が少ないことや、迅速さを考慮した結果。スマートフォンを持っていない方には2次元コード付きの紙で対応。



生活支援：水道基本料金の免除



免除期間（4ヶ月）
6月～9月請求分を基本料金免除

- ✓物価高騰の影響を全市民で軽減。
- ✓面倒な申請は一切不要です。

審査の視点

一律支給ではなく「基本料金免除」としたのは、公平かつ迅速に全世帯（約4.5万世帯）へ支援が行き渡る手法であると判断しました。

委員会の視点：今後の重要課題



介護保険準備基金の減少：残高が減少しているため、次期保険料算定を見据え慎重な財政運営が求められます。



インフラの長寿命化：下水道や道路など、目に見えない部分の投資を後回しにせず、効率的な維持管理を注視。



公共施設の適正配置：勤労青少年ホーム跡地利用など、地域ニーズに沿った資産活用を議論。



実効性のある脱炭素：ゼロカーボン推進を一過性の補助金で終わらせず、社会全体への影響の精査が必要。

ご清聴ありがとうございました。